

第 32 回 日本外来小児科学会 予防接種・感染症対策委員会 議事録

日時：令和 5 年 7 月 22 日（日）19 時 00 分～

ZOOM によるオンライン会議

参加 太田、落合、齋藤、崎山、田川、田原、長井、中野、中村、藤岡、牟田、横田、吉川
欠席 神谷、西藤、永井、八木

報告事項

1. 第 32 回 日本外来小児科学会 年次集会準備状況

WS 開催予定

感染症の迅速検査について考える（牟田先生）

参加者向けのアンケートを提示し、内容についての意見交換を行った

「他所はどうしてる？」うちではこのようにして予防接種をしています。（中村）

参加者は、メディカルスタッフが多くなったので、接種手技というより、医療安全の面からの議論を進める予定。

シンポジウム Vaccine Hesitancy （太田・藤岡先生）

片岡先生と太田先生で座長

勝田先生、菅谷先生、藤岡先生、峯先生がシンポジストとなる

このシンポジウムの内容を学会誌に掲載する。

学会誌は、「COVID-19 と HPV ワクチン接種を広げていくために — vaccine hesitancy について —」の特集号を企画中です。

2. 日本小児科学会予防接種・感染対策委員会報告（吉川先生 中野先生）

米国小児科学会と共同で Vaccine Hesitancy に関する training program を作成しています。

原因不明の肝炎についての実態調査が行われた

「こどもの予防接種」改訂作業を開始する

HPV vaccine 接種率の伸び悩みについて

ムンプスワクチンの副反応調査 6 万人のデータが集まっている。

3. 日本小児科医会 公衆衛生委員会（藤岡先生）

ワイドシリンなど抗菌薬の供給問題についての要望書を厚労省に出す。

4. おたふくかぜワクチンの副反応調査 （中村）

副反応調査のデータ収集を終了した。現在日本小児科学会の委員会・理事会に提出するため、データのクリーニングと集計を行っています。早期の定期接種化に向けてデータを使っていきたい

5. 齋藤先生からの話題提供

今年の RS 流行は B 型が主体となっている。例年は A 型優勢であった。今年患者が多いのは、型が変わったためと、コロナで数年流行がなく、免疫が低下していたためと思われる。

現在 雨季のミャンマー などを含め南半球では influenza H1N1pdm が流行しており、この冬の流行株となると予想されている。ミャンマーでは肺炎が多く出ており、肺炎などの増加が心配。

協議事項

1. e-learning 問題について (中村・落合先生・崎山先生)
作成されたものについては順次公開されている。
ワクチン有効性の問題について、現在修正中である。
2. おたふくかぜワクチンの副反応調査 現状報告 (中野先生)
報告されたとおり。
3. 意見交換
 - ① HPV vaccine 接種を広めるために どうするか
Catch up 接種を勧めるためにも、COVID-19 の時に使われた、職域接種など、出張接種を考えるべきではないか？
田川先生より情報提供があり、大村市 では大学での集団接種を開始する。県内の学生であれば接種可能。
 - ② 秋以降の COVID-19 ワクチンの進め方
XBB 株 1 価のワクチンが承認申請されている。
秋冬接種は このワクチンが使われるであろう。小児に対してもこちらの利用に変わっていくのではないか。
 - ③ 日本脳炎ワクチンの適切な接種時期について
6 か月からの開始についての議論を行った。
千葉県では、日本脳炎発生の後から、6 か月以降で接種する数が増えた。
3 歳まで待つべき根拠もない。
九州は日脳が多く出ているが、県により早期開始にばらつきがみられる。
 - ④ ワクチンの接種率はコロナ下で低下したのか？
崎山先生が調べた結果、MR などはコロナ流行期に一時的に接種数が減少したが、最終的には例年通りの接種率を達成していることがわかっている。
 - ⑤ ワクチンリテラシーを今後どのように進めるか
現実的に長時間動画は見てもらいにくくなった。
MEJM では 1 分間で内容を伝える動画を配信している。
マンガを使用したワクチン啓発資料 が作成されている。